

# 株式会社ウィザス

平成18年3月期第3四半期決算概況

---

JASDAQ:9696



<http://www.with-us.co.jp/>

# ウィザスとは

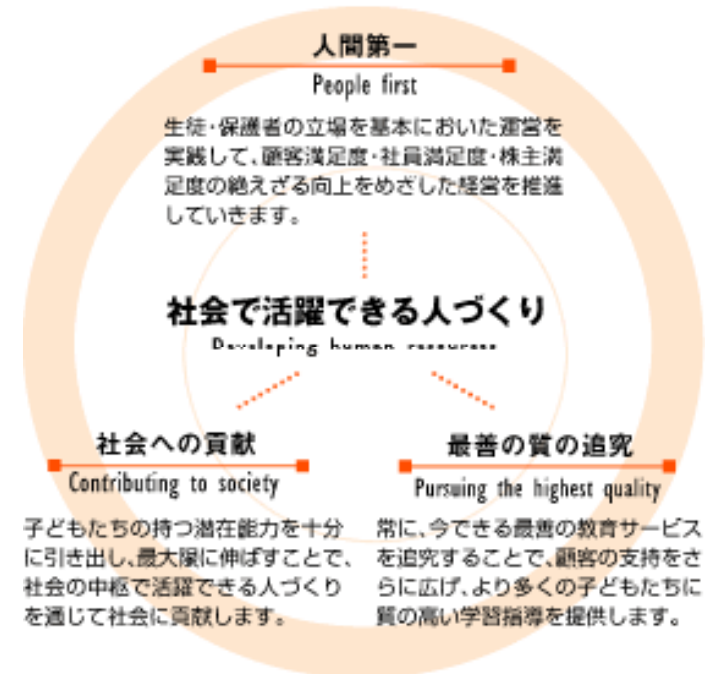
what is "With us"

子供たちの将来と教育の未来のために企業として何ができるのだろう・・・

- “社会で活躍できる人づくり”を実現できる最高の教育機関をめざします。

そのために、

私たちは「顧客への貢献」・「社会への貢献」・「社員への貢献」を経営理念とし、「貢献」を広げ、深めるための「自己成長と人間力発揮」に常に努めます。



# ウィザスの教育事業とは

夢を発見・実現する力

学習塾事業



高認・サポート校事業

第一高等学院



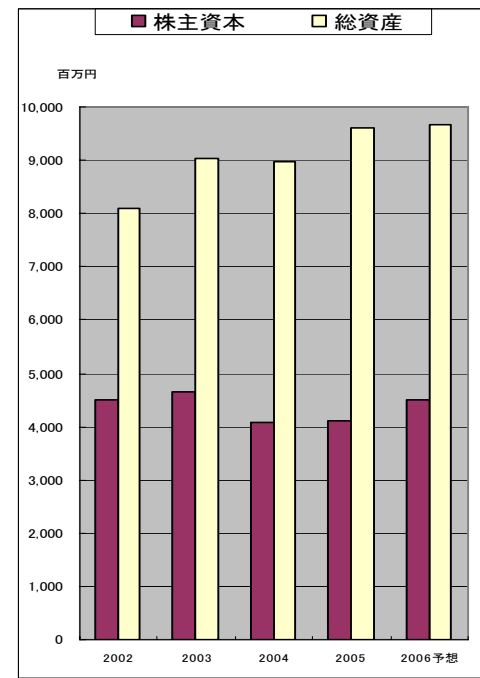
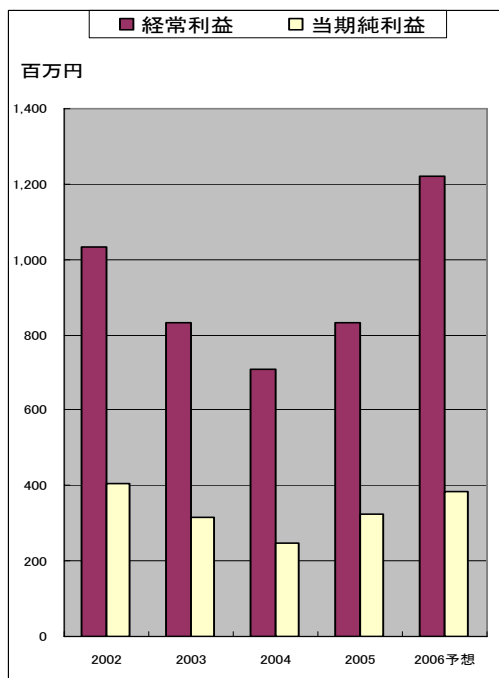
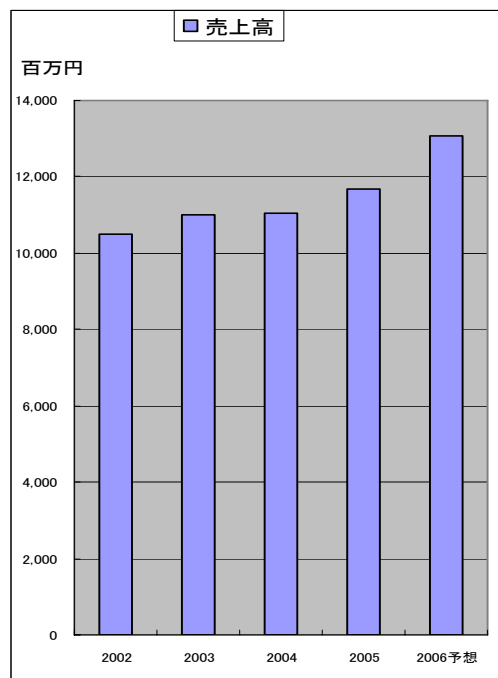
通信制高校事業

ウィザス高等学校  
WITH US HIGH SCHOOL



学習塾・予備校から通信制高等学校まで、生徒たちの可能性を最大限に伸ばせる環境づくりをめざした教育サービスを展開しています。

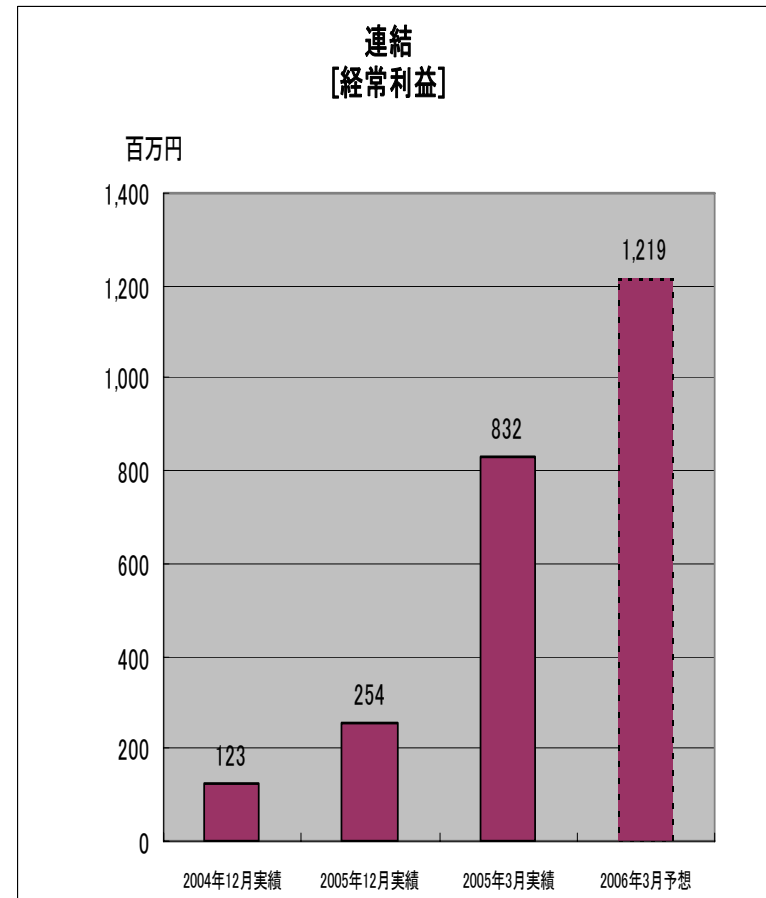
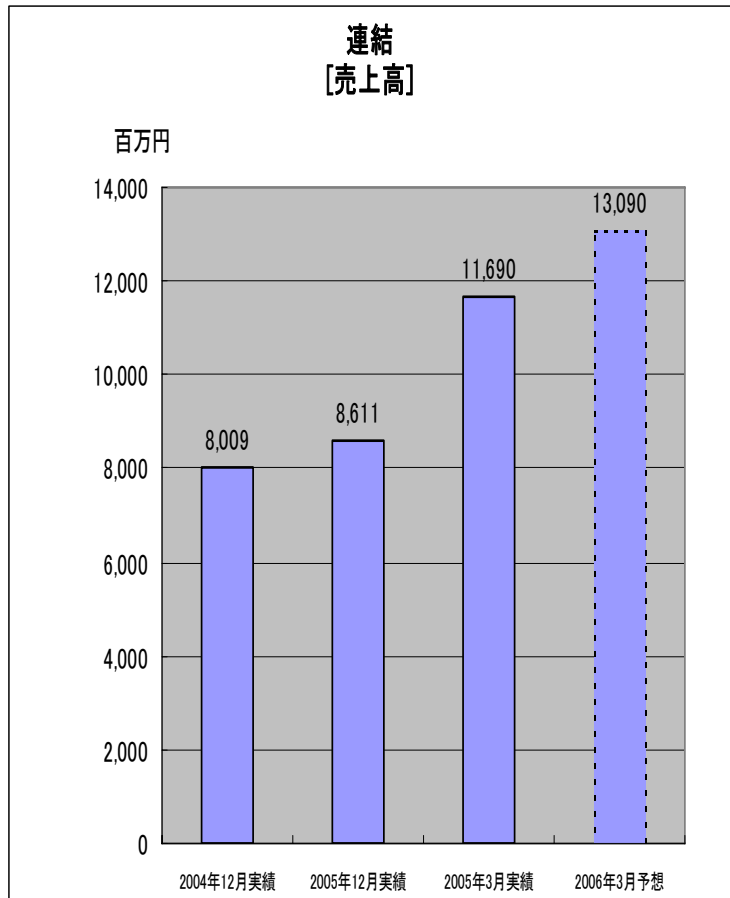
# データ・ハイライト(連結)



単位:千円

連結	2002.3	2003.3	2004.3	2005.3	2006.3予想
売上高	10,510,964	10,994,329	11,046,111	11,690,383	13,092,162
経常利益	1,034,654	834,419	710,850	832,531	1,219,338
当期純利益	407,140	314,545	247,404	325,228	383,845
株主資本	4,513,876	4,645,867	4,068,730	4,115,740	4,499,585
総資産	8,100,773	9,025,390	8,973,318	9,616,188	9,664,534
資本金	1,299,375	1,299,375	1,299,375	1,299,375	1,299,375
期末発行済株式総数	10,432,851	10,424,251	9,592,651	9,262,351	9,262,351
従業員数	526	525	525	548	548

# 第3四半期決算の状況(連結)



当社は4月の生徒数が基盤となり、月を経過するごとに新規入会で生徒数が増加するため、下期に大きく収益を確保する構造となっています。

# 主な経営指標(連結)

## 【連結財務諸表関連】

項目	単位	H13年3月期	H14年3月期	H15年3月期	H16年3月期	H17年3月期
<b>1. 連結損益計算書</b>						
①売上高	千円	10,329,974	10,510,964	10,994,329	11,046,111	11,690,383
②営業利益	"	1,298,892	997,654	804,613	731,347	801,158
③経常利益	"	1,288,356	1,034,654	834,419	710,850	832,531
④当期純利益	"	569,165	407,140	314,545	247,404	325,228
⑤減価償却費	"	281,544	296,340	318,693	324,225	358,605
⑥支払利息	"	15,177	11,068	9,866	10,760	10,351
<b>2. 連結貸借対照表</b>						
⑦純資産額	千円	5,679,443	4,513,876	4,645,867	4,068,730	4,115,740
⑧総資産額	"	9,609,801	8,100,773	9,025,390	8,973,318	9,616,188
⑨有利子負債残高	"	815,400	305,800	1,067,000	1,151,000	1,585,000
<b>3. 連結キャッシュ・フロー計算書</b>						
⑩営業活動によるキャッシュ・フロー	千円	950,131	925,065	631,899	1,021,179	909,214
⑪投資活動によるキャッシュ・フロー	"	△48,743	△557,387	△502,209	△730,888	△1,334,961
⑫財務活動によるキャッシュ・フロー	"	△132,389	△1,004,661	611,860	△391,752	182,026
⑬現金及び現金同等物期末残高	"	1,933,574	1,296,630	2,038,685	1,937,223	1,660,838
<b>4. 経営指標、その他</b>						
⑭発行済株式数(期中平均)	株	11,439,051	10,853,868	10,428,776	9,871,676	9,482,009
⑮発行済株式数(期末)	"	11,438,451	10,432,851	10,424,251	9,592,651	9,262,351
⑯株価(期末)	円	315	360	311	395	395
株主資本比率(⑦/⑧)	%	59.1	55.7	51.5	45.3	42.8
時価ベース自己資本比率(⑮×⑯/⑧)	"	37.5	46.4	35.9	42.2	38.0
売上高経常利益率(③/①)	"	12.5	9.8	7.6	6.4	7.1
EPS(1株当たり当期純利益)④/⑭ ※1	円	49.8	37.5	27.7	22.8	32.8
BPS(1株当たり純資産)⑦/⑮ ※1	"	496.5	432.7	443.2	421.8	442.8
ROE(株主資本当期純利益率)④/⑦	%	10.3	8.0	6.9	5.7	7.9
ROA(総資本経常利益率)③/⑧	"	13.8	11.7	9.7	7.9	9.0
CFPS(1株当たり営業CF)⑩/⑭	円	83.1	85.2	60.6	103.4	101.8
債務償却年数(⑨/⑩)	年	0.9	0.3	1.7	1.1	1.6
インレスト・カバレッジ・レシオ(⑩/⑥)	"	55.5	84.8	64.7	94.9	93.3
【ご参考】						
設備投資額 ※2	百万円	330	411	463	636	921
連結子会社数	社	2	1	2	3	2
持分法関連会社数	"	4	4	6	6	7
従業員数 [外、臨時雇用者数] ※3	人	631 [368]	526 [445]	525 [447]	525 [476]	548[518]
在籍生徒数(期中平均)	"	19,801	20,118	20,172	20,304	21,074

※1 15年3月期より、普通株主に帰属しない金額を除いて1株当たり指標を算出しております。

※2 通常の設備投資(差入保証金含む)以外に、IT関連投資で無形固定資産に計上したソフトウェア投資も含めております。

※3 [ ]内は臨時雇用者(非常勤講師及びパート職員)数で、非常勤講師は1日当たりの就業時間数を5時間として、パート職員は8時間として換算した人数を記載しております。

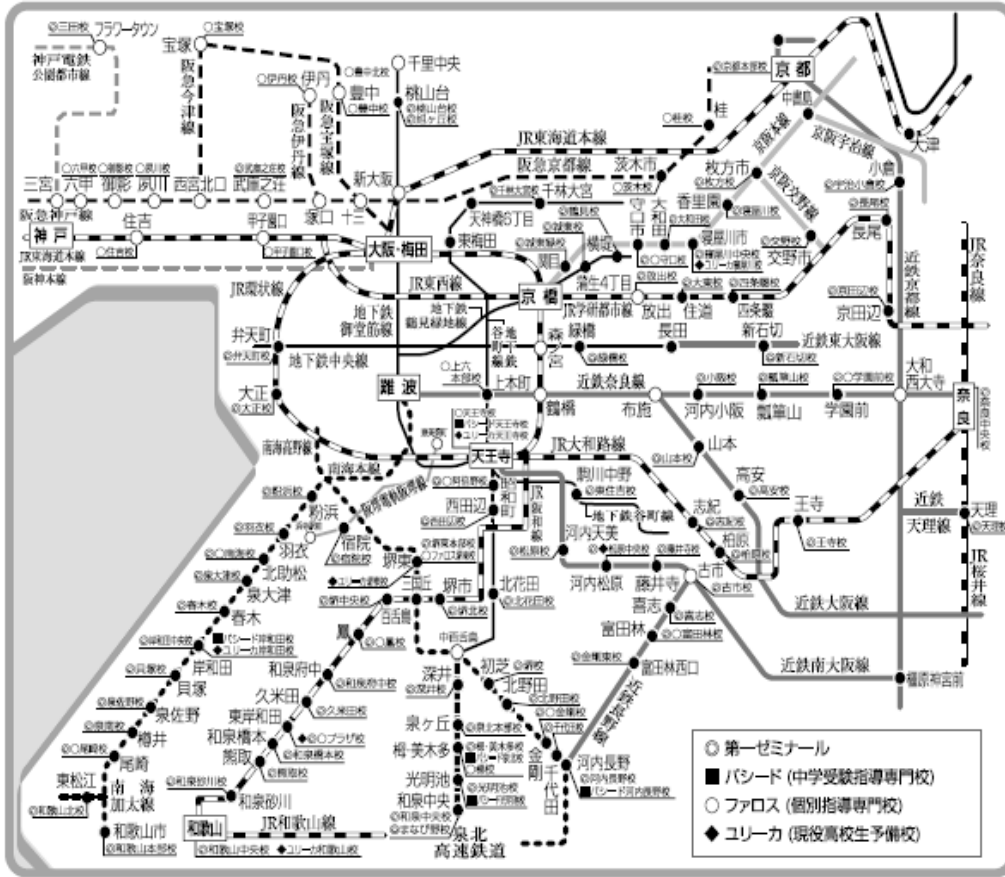
# 各事業部門の概要

## 学習塾事業

### 第一ゼミナールについて

第一ゼミナールは、近畿圏をドミナントエリアとして大阪・京都・兵庫・奈良・和歌山・岐阜・岡山・広島・香川に123拠点を展開し、小・中・高校生を対象とした進学塾です。

第一ゼミナール沿線マップ(近畿地区)



# 学習塾事業の事業展開方針

## 顧客ニーズの多様化に対応

### 豊富なサービスメニューと地域密着化の推進

合格実績のさらなる向上に向けて教育システム・進路指導・組織の地域化を推進  
幼児から高校生の学力別集団指導・個別指導等豊富なサービスメニューをご用意  
地域ごとの拠点校は大型校舎化を推進し、ワンストップ・サービスを提供  
授業指導の品質向上に向けて専任比率(社員化)100%化の推進

### 小・中・高の一貫体制の構築

小・中・高の一貫体制の構築による高校部門への継続を拡大  
高校生5,000名計画(2007年度)を推進

### 新業態・新コースの開発と定着

ファロスを中心とした個別学習指導コースの拡大  
ブルードルフィンズを中心としたネイティブによる幼児からの新英語教育  
能力開発としての右脳開発(速読)コースの充実と拡大

## 集団指導



## 個別指導

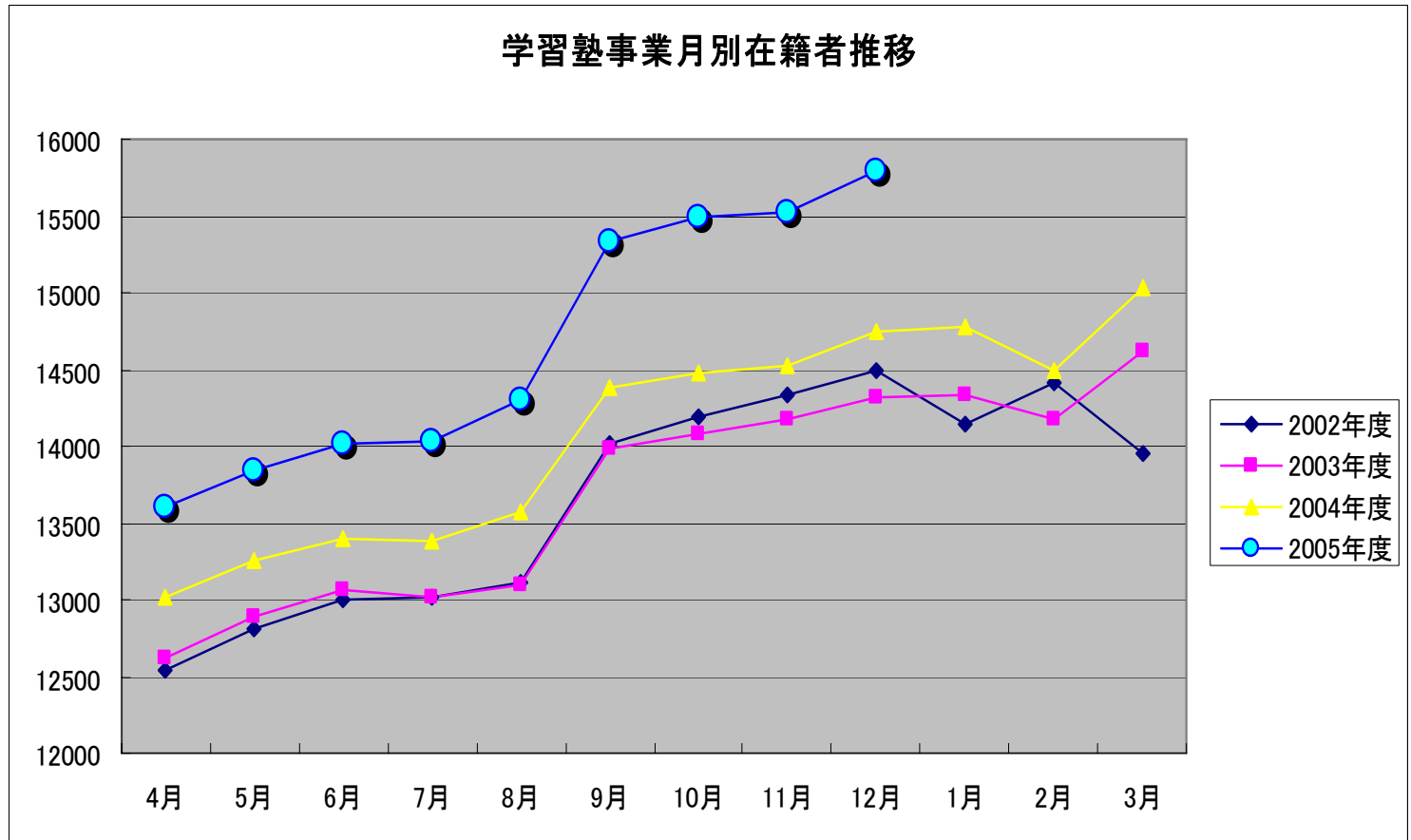


## 国際化





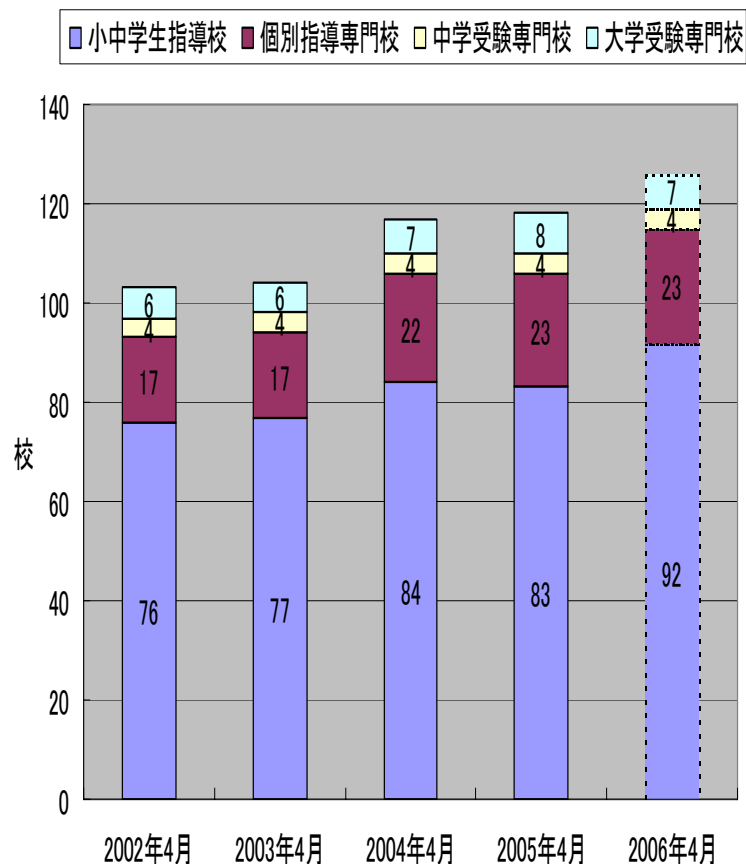
# 学習塾事業の状況



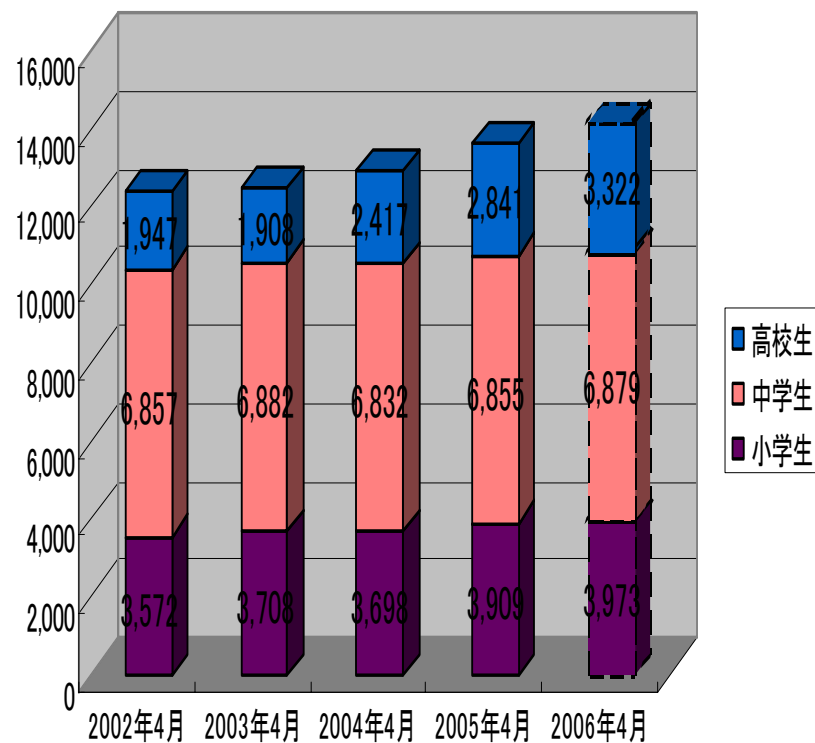
○教育カテゴリの細分化と専門性強化によるマーケットニーズへの適合および小・中・高の一貫性を確保したことにより、生徒数は拡大しています。

# 学習塾事業の状況

学習塾事業業態別校数推移

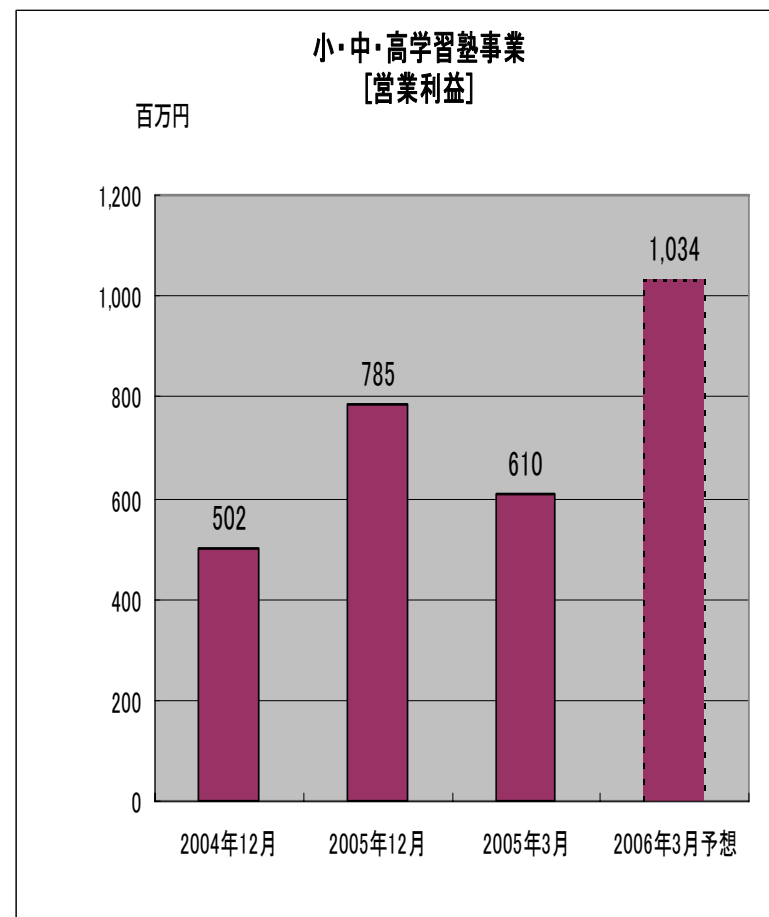
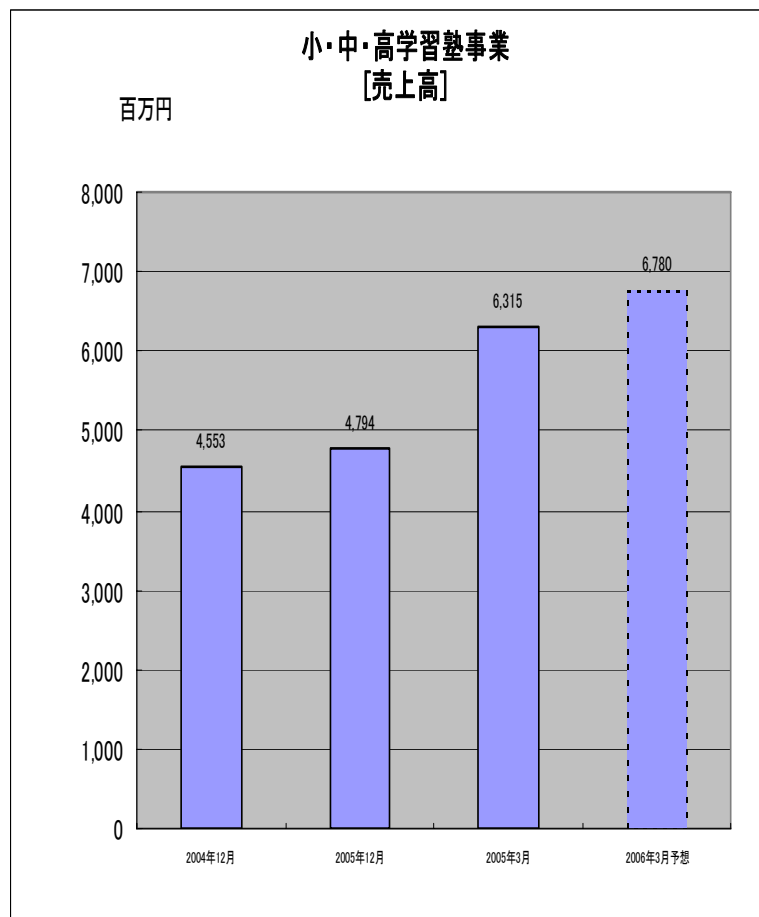


学齢別生徒数推移



○教育カテゴリの細分化と専門性強化によるマーケットニーズへの適合および小・中・高の一貫性を確保したことにより、特に高校生の生徒数が拡大しています。

# 学習塾事業の状況



営業利益につきましては、本社販管費用配賦前の利益を表示しております。

# 各事業部門の概要

## 高認・サポート校・通信制高校事業

### 高認・サポート校事業(第一高等学院)について

第一高等学院は不登校生・中退者はもとより、既存の学校教育にあわない生徒たちを対象に、国の実施する高等学校卒業程度認定試験の予備校として「高認コース」をはじめ、通信制高校生の高卒資格取得をトータルにサポートする「高校コース」などのコースを設置し、総合的な「もうひとつの学校」として各地域で支持を獲得しています。現在、生徒数は8千名を越え(全国40校)、4万人を超える卒院生が社会で活躍しており、当分野では**No.1**のシェアを獲得しています。



### 通信制高校事業(ウィザス高等学校)について

ウィザス高等学校は、2004年3月24日に茨城県高萩市が内閣総理大臣から構造改革特区の認定を受けたことにより、2005年4月に開校した広域通信制高校(単位制)です。本校の他、全国に36の学習センターを設置し、どの地域からでも入学することのできる高校です。本学ではさまざまな人とのふれあいや実体験を通し、心の成長や自分の将来を見つめるきっかけづくりを行うため、ボランティア活動やさまざまな体験学習を実施しています。



ウィザス高等学校本校



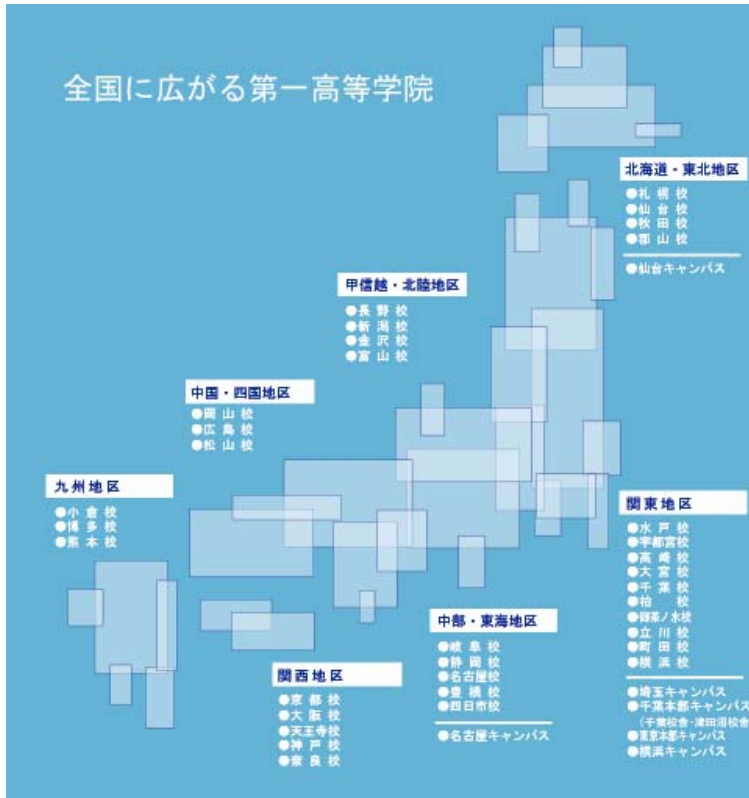
そば打ち体験



豆腐づくり

# 高認・サポート校・通信制高校事業の展開エリア

## 高認・サポート校事業



## 通信制高校事業

### ウィザス高等学校

29都道府県に37センター設置



# 高認・サポート校・通信制高校事業の事業展開方針

「大検」から「高等学校卒業程度認定試験(高認)」へ  
制度転換に伴う教育システムの改定および新募集システムの構築

「高認」への対応としてテキスト・テスト・時間割等の教育システムを改定  
「高認」制度普及キャンペーンを通じた受験者の拡大  
全日制高校に在籍する生徒の受験拡大に伴い、募集チャネルの開拓

**合格率No.1**  
大検合格率94.3%  
合格者2,025名  
(平成16年度)

**サポート・コースの競合力強化**

成長分野であるサポートコース(高校課程)を中心にビジネス・モデルを構築  
指導の中核であるカウンセリング機能の強化を推進  
新情報システムの構築によるCRM・QRを推進

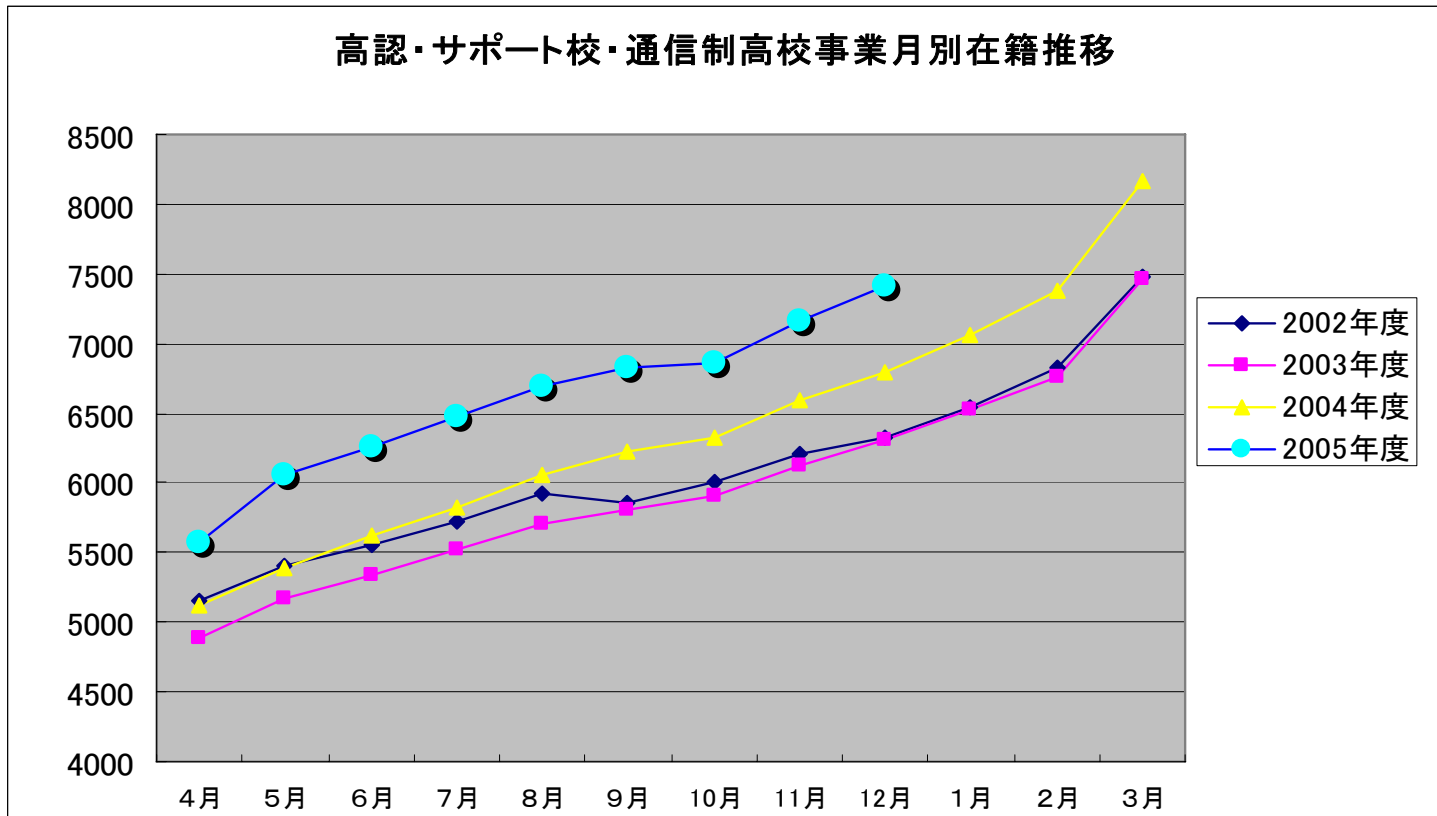
**卒業生**  
サポート・コース  
卒業生1,068名  
(平成16年度)

**教育特区を活用したビジネス領域の広がり**  
2005.04に通信制高校を開校

ウィザス高校開校に伴い、ビジネス領域および教育分野におけるシナジー確立  
サポートコースとの連動による卒業率・進学率の高さを確保  
教育システムの連動により他社が追従できないオンリー・ワンの教育機関に

**進学実績**  
大学・専門学校  
進学者数2,214名  
(平成16年度)

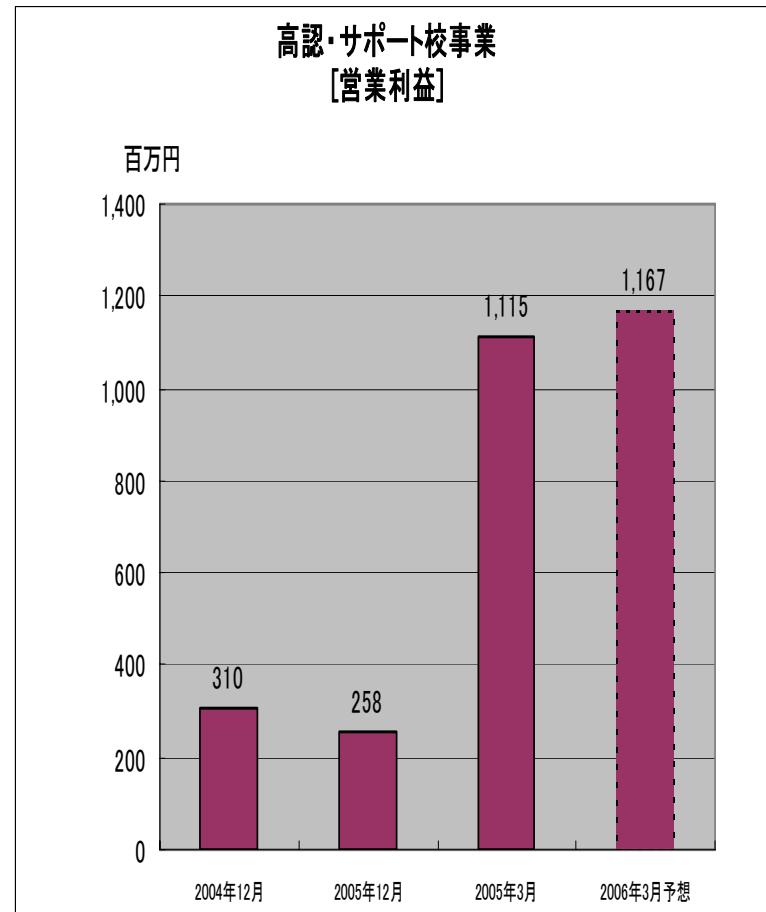
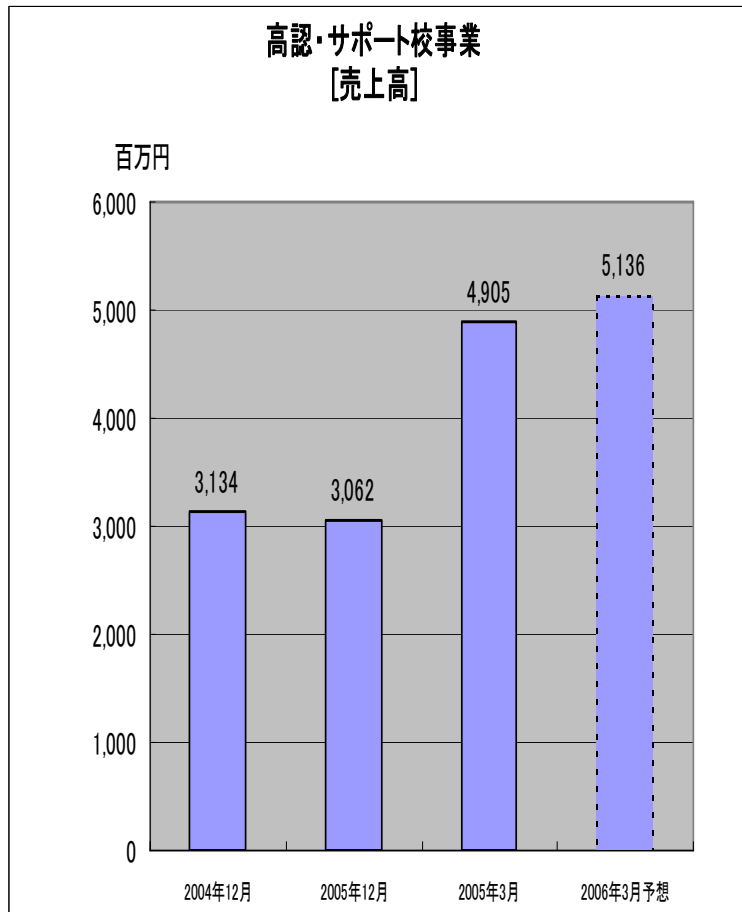
# 高認・サポート校・通信制高校事業の状況



○文部科学省による「大検制度」が今年度より「高等学校卒業程度認定試験(高認)」へ変更されました。この制度変更に対する事前の取り組みが功を奏したこと、および通信制高校開校に伴うサポート校生拡大により、生徒数は着実に拡大しています。

○生徒数につきましては、ウィザス高校に在籍する生徒がサポートコースを併用する場合、併用生徒数を除いており、通信制高校のみに在籍する生徒数を加算しております。その人数は156名であります。尚、通信制高校事業は当期より事業を開始しております。

# 高認・サポート校事業(単体)の状況



営業利益につきましては、本社販管費用配賦前の利益を表示しております。





# 通信制高校事業(ウィザス高等学校)の状況

- 設置者:株式会社ハーモニック(株式会社ウィザスの100%子会社)
- 代表取締役社長:堀川 一晃
- 設置学校名:ウィザス高等学校
- 設置課程:通信制課程 単位制 普通科 男女共学(独立校)
- 学校設置位置:茨城県高萩市赤浜苧又作2086-1
- 収容定員:6,000名
- ウィザス高校の特色

収支見通し	開校1年目	開校2年目	開校3年目
年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高(百万円)	761	937	1,113
経常利益(百万円)	0	69	110

ウィザス高等学校は、2004年3月24日に茨城県高萩市が内閣総理大臣から構造改革特区の認定を受けたことにより、2005年4月に開校した広域通信制高校(単位制)で、全国から入学することのできる高校です。

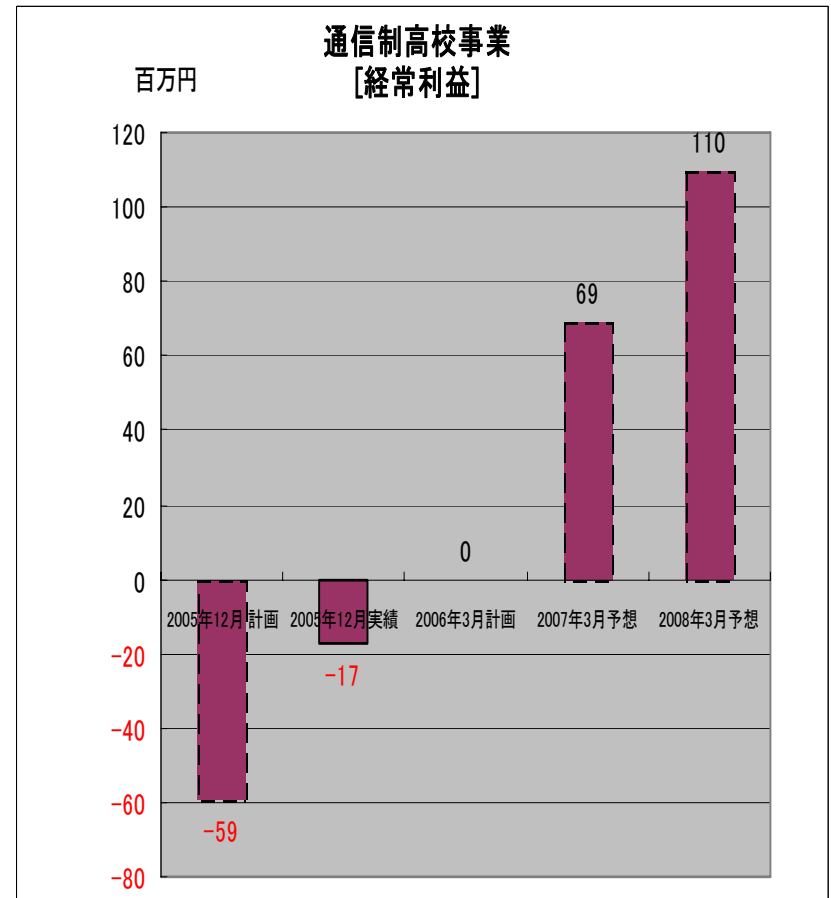
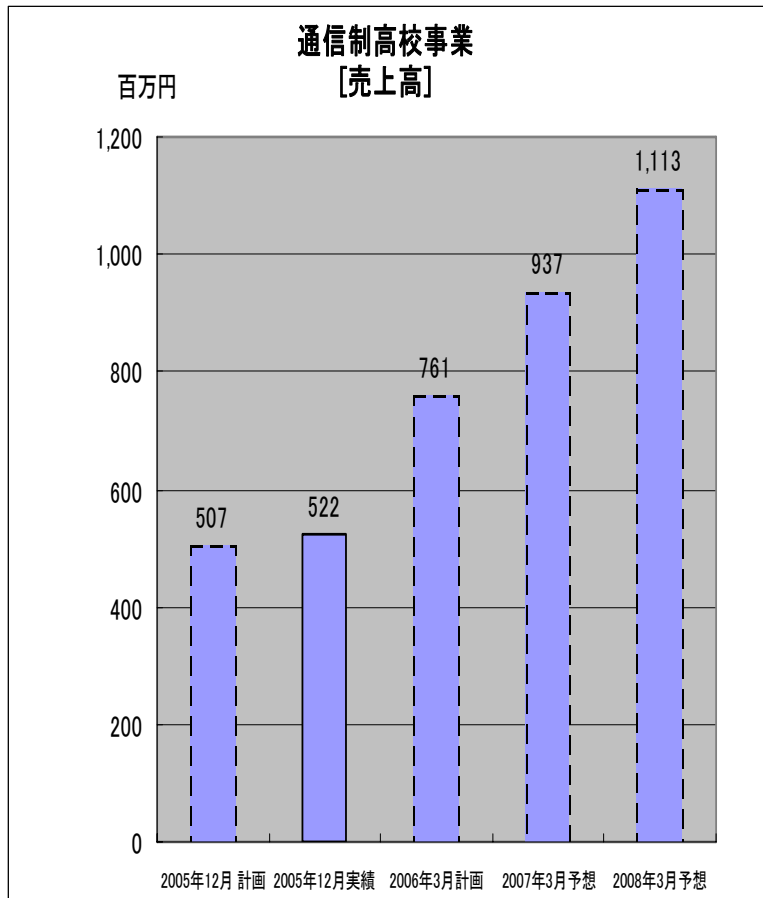
既存の通信制高等学校の現状として、レポート・スクーリング・テストの教育システムを最後までやり遂げる難しさがあり、実際に3年間で卒業できる割合がおよそ4人に1人という大きな課題があります。

通信単位制ウィザス高等学校は、政府の方針である「構造改革特別区域基本方針の一部変更について(平成15年7月4日閣議決定)の816(学校設置会社による学校設置事業)」にもとづき民間の立場(株式会社)で設立する学校であります。

また、本校は「高等学校等における学校外学修の認定可能単位数拡大事業(804)」の特例措置を適用することにより、学校外においての認定単位数を現行の20単位から30単位とし、ボランティア活動や体験学習等の強化による自然や人とのふれあいを重視する教育課程を編成することが可能となりました。このことにより、不登校状態等にあった生徒へのメンタル面でのケアを含めたきめ細かな対応を行い、自己達成実感・他者貢献実感を通じて生徒の自立・自己成長につなげる指導を行います。

さらに株式会社が設立するメリットとして、将来設計指導を入学段階から導入し、「企業体験」「社会人としての心得」「就職試験指導」等の体験学習も実践していく等、他の学校では実践できない教育を行い、生徒の学習意欲を喚起し、3年間での卒業を可能とする自己教育力の養成を図ります。弊社といたしましては、現在、全日制高校に通うことのできない子どもたちや様々な問題を抱えている各地域の子どもたちに対し、30年の指導ノウハウを活かし、「称賛・成就感・社会性」の3つの教育視点とIT等を活用した新たな通信教育手法やスクーリングを通じた体験型教育による「自己実現達成教育」が実践できる高等学校を目指しております。

# 通信制高校事業(ウィザス高等学校)の状況



1. 通信制高校事業につきましては2005年度からの開校となっております。

# ウィザス高等学校は、Jリーグ「セレッソ大阪」と業務提携。 クラブチーム強化を教育面からサポートしています

ウィザス高等学校では、スポーツ・芸能などの各界を目指す生徒たちの学習指導の側面と将来設計指導の両面で支援し、生徒の夢実現へのサポートにも力を入れています。

## ウィザス高等学校で芸能界を目指していたり、活躍している生徒の一例

- 芸能プロダクションに所属しモデルとして活躍、最近ではテレビドラマにも出演
- 鈴鹿にあるスクールに通いF1レーサーを目指している生徒
- ピアニストとしてプロデビュー。ラジオやコンサートなどで活躍している生徒 など

上記のような生徒をみんなで応援し、活躍している姿を見ることで、生徒全員が自分の将来の励みになっています。

## 業務提携の記者発表

平成17年7月13日、長居スタジアムにて  
記者発表が行われました。

(右)セレッソ大阪 西村昭宏 ゼネラルマネージャー  
(中)ウィザス高等学校 堀川一晃 理事長  
(左)ウィザス高等学校 生駒富男 副理事長



# 平成18年3月期第3四半期決算の概況(連結) (平成17年4月1日～平成17年12月31日)

## (1) 経営成績（連結）の進捗状況

(百万円未満は切捨て表示)

	売上高		営業利益		経常利益		第3四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月第3四半期	8,611	7.5	276	129.3	254	106.5	△124	—
17年3月第3四半期	8,009	3.6	120	△53.8	123	△54.1	△85	—
(参考) 17年3月期	11,690	5.8	801	9.5	832	17.1	325	31.5

(注)売上高、営業損益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示します。

## (2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年3月第3四半期	8,912	3,901	43.8	408	29
17年3月第3四半期	8,626	3,723	43.2	401	85
(参考) 17年3月期	9,616	4,115	42.8	442	76

### 【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金 同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月第3四半期	△865	△446	905	1,253
17年3月第3四半期	△840	△1,031	1,067	1,100
(参考) 17年3月期	909	△1,334	182	1,660

# 平成18年3月期の連結業績予想について

## 〔参考〕

平成18年3月期の連結業績予想（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

	売上高	経常損益	当期(中間)純損益
	百万円	百万円	百万円
通 期	13,090	1,219	383

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 38円70銭

## 〔収益確保・利益確保の季節変動について〕

### (学習塾事業)

生徒数は4月在籍が基盤となり、月を経過するごとに新規入会で増加する構造となっております。収益面では、とりわけ季節講習会を実施する8月、12月、3月及び教材費等を一括請求する9月、3月に利益を確保する構造となっております(中でも3月はこれらが重なりますので、月次ベースでの収益、利益が大きくなります)。

### (高認・サポート校・通信制高校事業)

サポート校・通信制高校コースでは、高校の新学年の始まる前の2、3月に集客上のピークを迎えるため、この2ヶ月が収益・利益とも大幅に計上できる月になっています。また、高認コースでは本試験実施月(今年度実績では8月、11月)の要因もあり、期中の生徒数の伸びも期の前半より本試験が終了する後半からの方が比重が大きく、月別の利益確保の状況も5月から11月は赤字基調で推移し、12月から4月、とりわけ上述の如く2、3月で大きく利益を確保する構造になっています。

## 〔業績予想について〕

本資料に記載の業績予想につきましては、作成日現在において入手可能な情報に基づき予想したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。